



誰でも参加できる！子ども食堂

- 家族形態の多様化、経済的環境の変化、少子高齢化の進展等の影響により、食生活の乱れ、栄養の偏り、食を通じたコミュニケーションの機会の減少、食べ物を大切にする意識の希薄化等の問題が生じている。
- このため、子ども食堂を開催して、参加者同士で食事の感想を述べ合うコミュニケーションをとりながら、「誰もが気軽に集まって、会話をしながら楽しく食事ができる“場”と“時間”の提供」に取り組んだ。

【取組の内容】

- 共食の場における食育活動「子ども食堂の開催」
令和5年4月から令和6年3月までの間に、名古屋市内で子ども食堂を計22回開催し、未就学児、小・中・高校生、大学生や子どもの祖父母など、幅広い年代の参加者が延べ237人となった。
食材は、子どもたちが好きで食べやすく、バランスよく栄養を摂取できることや、旬を意識し、新鮮な食材を使用するよう心がけた。
保護者が家庭でも実践しやすいよう、調味料や調理方法がシンプルなメニューを選んだり、産地等が分かるように伝えることなどにも取り組んだ。
また、参加者同士が「甘い、辛い、酸っぱい」等の感覚を言葉にして、交流を図った。



(提供メニュー(例:牛丼野菜添え))



(食後の交流会)

【取組の成果】

参加者からは、「家族や友人と一緒に食事をする意識が高まった。」「食品を選ぶときに、産地や生産者を意識するようになった。」などの声があり、食事を“誰かと一緒に”とることの楽しさを感じたり、“誰がどこで食品を作っているか”を考えたりする場を提供できた。

【事業の目標】

- ① 家族等の誰かと一緒に食事をする市民の割合
事業実施前75.7%
→事業実施後95.2%
- ② 産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ者の割合
事業実施前74.8%
→事業実施後89.7%

